
平成20年度予算第二特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成20年3月10日

質問者（質問順）

1 荻野慶子委員（無所々）

2 関勝則委員（自民党）

3 山下正人委員（自民党）

4 飯田助尚委員（民主党）

5 斎藤真二委員（公明党）

6 井上大右委員（民ヨコ）

資源循環局

局 別 審 査

1 荻野慶子委員（無所ク）

1 地域還元

- (1) 自治会・町内会の現在の申込状況はどうか。
 - (2) 自治会・町内会未加入者への地域還元はどのように対応したのか。また、その申込状況はどうか。
 - (3) 物品の配布について地域からはどのような意見があったのか。
 - (4) 物品の配布はやめて、市民のG30への協力がさらに環境対策につながっていることを実感できるような方法に改めるべきだと思うが、どうか。
- (要望) すべての市民が自らの協力が環境改善につながっているという実感が持てるような方法を考えていただくよう要望する。

2 収集回数の変更

- (1) 古紙と古布の収集について、行政回収を月2回に増やした地域はどのくらいあるのか。
- (2) G30プランで静脈産業の育成を掲げている中、資源集団回収を増やし、行政回収は縮小していくべきだと思うが、それに向けてどのように取り組んでいくのか。

3 古紙の持ち去り

- (1) 過去3年間の古紙の売却単価はどのようになっているのか。
 - (2) 集積場所からの持ち去りの状況はどのように推移しているのか。また、常習的に行っている業者をどの程度把握しているのか。
 - (3) 今後相場が高騰していくと、持ち去りが増えることが予想されるが、どのように対応していくのか。
- (要望) 市民が分別して出している古紙について、持ち去り行為を行う悪質な業者に対しては、登録から外すなど、毅然と臨むべきであり、対策についてもし

っかり行うようお願いする。

4 分別の推進

(1) 分別ルールを守らない者への罰則制度について、分別が困難な方についてはどのように対応するのか。

(2) 市外からの転入者に、横浜の分別を周知する取組が必要だと思うが、どうか。

(3) ペットボトルのキャップやラベルを取って出すことがあまりPRされておらず、徹底されていないことから、その必要性も周知し、徹底を図っていくべきだと思うが、どうか。

(要望) ぜひPRを工夫して、引き続き啓発していくようお願いする。

(4) 発生抑制やリユースの推進に向けての取組については、20年度予算案にはどのように盛り込まれているのか。

(要望) 横浜市も自治体をリードして、発生抑制やリユースの仕組みづくりを進めていただくよう要望する。

2 関 勝 則 委員（自民党）

1 平成20年度予算の考え方

- (1) 20年度予算の編成にあたって資源循環局の基本的な考え方について伺いたい。
- (2) 新たな領域に挑戦とは、具体的にどのような取組を行うのか。
- (3) 従来からの取組においても、予算上、特に重点をおいたことはどのようなことか。

2 G30の進捗状況と目標

- (1) 19年度のごみ量について、どのように評価しているのか。
- (2) 20年度のごみ量目標について、どのように考えているのか。

3 確実なリサイクルの推進

- (1) 分別された資源物は、確実にリサイクルされているのか。
- (2) 本市のペットボトルのリサイクルの流れはどうなっているのか。またどのようなものにリサイクルされているのか。
- (3) 本市が直接売り払っているペットボトルのリサイクル状況をどのように確認しているのか。
- (4) ペットボトル・リサイクルの環境負荷について、本市の見解を伺いたい。
- (5) 市民の協力を得るため、また誤解を招かないため、分別した資源物がどのようにリサイクルされているかをきちんと伝えることが重要と考えるがどうか。

4 リサイクル促進モデル事業

- (1) 本市が、リサイクル促進モデル事業に参加する意義は何か。
 - (2) リサイクル促進モデル事業では、具体的にどのような取組を行うのか。
- (要望) このモデル事業で得た情報や成果については、広く市民に提供していただきたい。

5 生ごみのリサイクル

- (1) 生ごみリサイクルを行う意義は何か。
- (2) 生ごみの分別・リサイクルにおいて、どのような課題があると考えているのか。
- (3) どのような調査を行うのか。
- (4) 検証の結果をどのように活かすのか。

6 資源集団回収の拡大

- (1) 資源集団回収の回収量及び伸び率はどのような傾向にあるのか。
 - (2) 今後も資源集団回収を拡充していくための課題は何か。
 - (3) 古紙・古布の行政回収を月1回から月2回にすることによって、資源集団回収量が減少することも懸念される中で、影響が出ないようどのように対応したのか。
 - (4) 資源集団回収の拡充に向け、未実施地域の解消も含め、今後どのように対応していくのか。
- (要望) 集団回収の拡充に向けて積極的な対応をとっていただくよう要望する。

7 リデュース・リユースの促進

- (1) リサイクルだけでなく、発生抑制・再使用の推進を図ることが必要であると思うがどうか。
- (2) 「脱・使い捨て」促進事業の目的は何か。
- (3) 取組を進めるにあたっての課題は何か。
- (4) 20年度は、どのように取組を進めていくのか。
- (5) 市内のイベント等における、リユース食器の利用状況はどのようになっているのか。
- (6) リユース食器普及促進事業は、どのようなことを行うのか。

8 環境学習の推進

- (1) 「物を大切に作る心」を育てることが、環境学習には必要だと思うがどうか、

副市長に伺いたい。

- (2) これまで、どのような環境学習に取り組んできたのか。
 - (3) 今後、環境学習を進めていく上での課題は何か。
 - (4) 幅広い年齢層に対応するために、どのような取組をしていくのか。
 - (5) 「G30コーディネーター」に、どのような活動を期待しているのか。
 - (6) 市民の反応はどうか。
 - (7) 金沢工場に開設するにあたり、どのようにつなげていくのか。
 - (8) 「G30ひろば」の今後の構想は、どのように考えているのか。
- (要望) 事業の推進にあたっては、積極的なPRを行うとともに、効率的な運営をお願いする。

9 焼却灰の有効利用

- (1) 焼却灰の有効利用を進める意義は何か。
 - (2) 20年度の取組はどのようなものか。
 - (3) 他都市の焼却灰資源化の状況はどうか。
 - (4) セメント原料化を進めていく理由はどのようなものか。
 - (5) セメント原料化PFI事業とは、どのような事業なのか。
- (要望) 事業の必要性、安全性について、わかりやすく、丁寧に説明し、地元の皆様理解を得ながら進めていただくことを要望する。

1 家庭ごみの分別の徹底と定着に向けた取組

- (1) 分別の徹底・定着に向けて、これまでどのような周知や啓発を行ってきたのか。
- (2) これまで以上に分別の徹底・定着を図っていくにあたっては、どのような課題があると考えているのか。
- (3) 分別の徹底・定着に向け、集合住宅に対してはどのような取組をしているのか。
- (4) 改めて、罰則制度導入の目的は何か伺いたい。
- (5) この制度の目的である分別の徹底を図るために、罰則制度をどのように運用していくのか。
- (6) 地域還元の方法を、物品の配布とした考え方について、伺いたい。
(要望) 横浜市脱温暖化行動方針（CO-DO30）や緑の保全などの環境対策にも役立つような資金の使い方、地域の要望に合った方法についてよく検討していただくことを要望する。

2 事業系ごみ対策

- (1) 事業者への啓発、指導の取組と罰則の適用
 - ア 事業系ごみの減量・リサイクルを推進するため、排出事業所に対してどのような取組を行っているのか。
 - イ 罰則制度の導入によって、どのような効果が期待できると考えているのか。
 - ウ この新しい制度に対する事業者サイドの反応はどうか。
 - エ 分別ルールの周知徹底に向けて、どのように取り組んでいくのか。
- (2) 処理業者の指導育成
 - ア 事業系ごみの適正処理の推進に向けて、許可業者に対してどのように取り組んでいるのか。
 - イ 不適正な搬入をした許可業者には、どのように指導しているのか。
 - ウ 厳しく指導するだけでなく、許可業者を育成する取組も必要だと思うが

どうか。

エ 優良事業者とはどのような事業者か。

オ 今後、優良事業者を増やしていくことが重要と考えるが、どのように取り組んでいくのか。

(要望) 許可業者に対しても分別収集の徹底の指導を行うとともに、一生懸命取り組んでいるものは評価し、その努力が報われるよう、引き続ききめ細かな対応をお願いします。

3 適正処理の推進

(1) 安定した焼却処理

ア 焼却工場の運転管理はどのような基準で行っているのか。

イ G30の推進によって、発熱量が低下するなどごみ質の変化が見られると思うが、焼却処理は適正に行われているのか。

ウ 焼却工場の整備については、どのように考えているのか。

(2) 安全な埋立処分

ア 現在、埋立処分が行われている神明台処分地と南本牧最終処分場では、どのような環境保全対策を行っているのか。

イ 環境調査ではどのようなことを行っているのか、また、その調査結果はどうか。

ウ 環境保全対策や環境調査の結果をどのように市民に伝えているのか。

4 災害対策

(1) 災害時に発生する廃棄物について、どのように対応することとしているのか。

(2) 災害時の廃棄物処理についての課題は何か。

(3) 災害時のトイレ対策の中で、トイレパックの位置づけはどのようになっているのか。

(4) 今後のトイレパックの備蓄計画はどのようになっているのか。

(5) 災害時の家庭でのトイレ対策はどのようになっているのか。

(要望) 家庭でのトイレ対策について、市民にしっかり広報していただくようお願い

いする。

5 喫煙対策の推進

- (1) 現在までの罰則の適用状況はどうか、また、その効果についてどのように考えているのか。
- (2) 相当、効果が上がっているとのことだが、その要因をどのように考えているのか。
- (3) 罰則の適用が開始された後、市民からはどのような意見が寄せられているのか。
- (4) 今後、さらに効果を上げるための課題は何か、また、どのような対応を考えているのか。
- (5) 今後、喫煙禁止地区の拡大や推進はどのような考え方で進めていくのか。
(要望) 市の中心部だけでなく、郊外区についても喫煙禁止地区の指定がなされるよう要望する。

6 戸塚区品濃町最終処分場

- (1) 結果的には、行政代執行をせざるを得なくなったこれまでの市の行政対応について、どのように捉えているのか、当局の見解を伺いたい。
- (2) 年度別の工事内容、スケジュールについて伺いたい。
- (3) 特措法事業期間終了後の施設管理はどのようになるのか。
- (4) その財源は、どのように措置されているのか。
- (5) 不交付団体になった場合、本制度を活用する意味はどこにあるのか。
- (6) 再発防止に向けた本市の取組について、副市長に伺いたい。

7 家庭ごみ収集の委託

- (1) 家庭ごみ収集の委託を実施して4年になるが、その検証結果はどうか。
- (2) これまで委託を実施してきた中、具体的にどのような問題があったのか。
- (3) 委託業者による収集は、本市職員による収集に比べ、どのようなメリット・デメリットがあるのか。

(4) 今後委託を拡大していくにあたっての課題は何か。

(5) このような課題を踏まえ、家庭ごみ収集の民間委託についてはどのように進めていくのか、副市長に伺いたい。

(要望) 民間業者が担い手になり続けられるような条件整備も必要なので、その点の検討も引き続きしていただくよう要望する。

4 飯田助尚委員（民主党）

1 平成20年度予算の編成方針

- (1) 予算編成にあたって、どのような工夫をしたのか。
- (2) 諸収入を増やすために、どのような工夫を行っているのか。

2 G30のさらなる進化に向けた取組

(1) 事業者に対する発生抑制の取組

ア 排出事業者としての横浜市役所ではどのような取組を行っているのか。

イ 大量に発生する紙類については、まず発生抑制に取り組むことが必要だと思うが、紙類の発生抑制に向けてどのように取り組んでいるのか。

ウ 資源循環局では、このような紙を製造するために必要となる木材の量や製造に伴う二酸化炭素の排出量について、認識しているのか。

エ 横浜市脱温暖化行動方針（CO-DO30）の推進の観点からも、ペーパーレス化の徹底を図るべきだと思うがどうか、副市長に伺いたい。

(要望) 市役所での紙ごみゼロに向けて、積極的に取り組むよう要望する。

(2) 分別収集した資源物のリサイクル

ア 横浜市が分別収集した資源物のうち、売却により資源化を行っている品目はどのようなものか。

イ 市民が手間をかけて分別した資源物であり、貴重な市の財源であることから、売却にあたっては、適正に、より収入が上がるよう工夫する必要があると考えるがどうか。

(要望) 一生懸命に分別している市民の皆さんのためにも、また、厳しい財政状況が続く状況もあるので、さらなる工夫を重ね、確実に資源物を売却して、財源の確保に努めていただくよう要望する。

ウ 木製粗大ごみのリサイクルについて、20年度はどのように実施するのか。

エ リサイクル施設ではどのように処理され、どのようなものにリサイクルされるのか。

(意見) 今回の事業を十分検証していただき、事業拡大に向けて検討していただき

たい。

(3) 分別のルールを守らない市民に対する罰則の導入

ア どのような周知・PRを行っているのか。

イ 市民の方からは、どのような声が寄せられているか。

ウ 分別ルールを守らず指導等を受けた方の、その後の分別状況については、どのように確認していくのか。

エ 罰則制度の実施後、この制度導入の効果について、検証していく必要があると思うがどうか。

(意見) 実施にあたっては、分別しなかった方が分別を始めるような指導等をお願いする。また、その前提となる分別ルールについての周知や啓発も、鋭意行っていくことをお願いする。

3 さらなる運営の効率化と市民サービスアップ

(1) 市民サービスアップ

ア ふれあい収集については、どのような方を対象に実施しているのか。

イ ふれあい収集の過去3年間の実施状況について、伺いたい。

ウ ふれあい収集については、もっと地域ボランティアを活用して実施していくべきではないかと思うがどうか、副市長に伺いたい。

(要望) 行政において、縦割りにとらわれない局際的な連携をもっと推進し、今後とも市民サービスアップに取り組むよう要望する。

(2) 路上喫煙禁止

ア 20年度予算では、違反者から徴収する過料について、どのように使う予定か。

イ 飲料水自販機に回収箱を設置しているように、たばこの製造事業者や小売店は、ポイ捨てを防止するための取組を行うなど協力すべきと考えるがどうか。

ウ 喫煙禁止地区において喫煙者を取り締まる以外にも、喫煙場所を設置するなど喫煙者への配慮も必要だと考えるがどうか。

エ 喫煙場所を設置するにあたり、行政がすべて負担するのではなく、事業者

の協力を求めるべきだと考えるがどうか。

(要望) ただ単に過料を徴収するのではなく、たばこの製造業者や小売店の協力を得ながら、分煙の徹底や喫煙所の設置など効果的な取組を進めていただくよう要望する。

4 廃棄物、再生利用エネルギー等の適正な処理

(1) 市の処理施設での事業系ごみの受入状況

ア 現在、横浜市の施設で受け入れている事業系一般廃棄物には、どのようなものがあるのか。

イ これまで、受け入れ時間の延長等の事業者の利便性を図る取組を行ってきたのか。

ウ 24時間営業など、様々な業態がある中で柔軟な対応が必要だと思うが、今後、どのように取り組んでいくのか。

(2) 発電電力と環境価値分の売却

ア 焼却ごみが減少する中で、発電収入が増加しているのはなぜか。

イ 発電効率が高い焼却工場へごみ量をシフトすることだが、そのことによる効果はどれくらいあるのか。

ウ 廃棄物発電が新エネルギーとして認められているようだが、どのようなメリットがあるのか。

エ 環境価値分を増やすためにどのような取組を行っているのか。また、どの程度の収入が見込めるのか。

(要望) 紙の使用削減には大きな効果があると思うので、横浜市役所において職員全員が、二酸化炭素の排出量削減に努めていただきたい。また、平成20年度も市民と協力し、G30のさらなる進化に引き続き挑戦するとともに市民サービスアップに努めていただきたい。

1 廃棄物中のバイオマス活用

- (1) G30は、温暖化対策、横浜市脱温暖化行動方針（CO-DO30）にどのような形で貢献していくのか。
 - (2) 温暖化対策として、廃棄物に含まれるバイオマスを活用することについて、どのように考えているか。
 - (3) 温暖化対策としての生ごみの資源化のポイントは何か。
 - (4) 電気式生ごみ処理機や生ごみコンポスト容器のこれまでの応募傾向はどうか。
 - (5) 助成金の申請手続きをもっと簡素化すべきと考えるがどうか。
 - (6) 他都市ではどのような資源化技術で生ごみを有効活用しているのか。
 - (7) 研究開発中のものも含め、幅広く資源化技術について調査・検討を進めるべきと思うが、どうか。
- (要望) 各家庭での生ごみの減量化・資源化の取組や、新たな技術の導入等により、さらなるごみの減量・リサイクルにつなげ、脱温暖化行動にも大きく寄与していく、取組の推進をお願いする。

2 喫煙禁止地区指定

- (1) 美化推進員の勤務体制はどのようになっているのか。
- (2) 過料適用者の市内在住者、市外在住者の割合はどれくらいか。
- (3) 今後もPRが必要と思うが、計画はあるか。
- (4) 他都市からの来訪者に対するPRはどのように考えているのか。
- (5) 急速に商業化・市街化が進む場所では、環境が悪化する前に、あらかじめ禁止地区に指定することも一つの方法と思うがどうか。

3 放置自動車

- (1) 過去3年間に放置自動車として発見通報された件数はどうか。また、20年1月末までどのように推移しているか。
- (2) 発見通報されている件数が減少しているようだが、その理由はなにか。

- (3) 所有者を特定でき、所有者自らが撤去した件数の割合はどうか。
- (4) 放置自動車が発生する地区に偏りはあるのか。
- (5) 放置自動車の発生防止にどのような対策を行うのか。

4 戸塚区品濃町最終処分場

- (1) 初年度となる20年度には具体的にどのような工事が行われるのか。
 - (2) 工事の実施に向けて、既に、地元説明を行ったと思うが、住民はどのような反応なのか。
 - (3) 工事の実施にあたり、周辺環境対策としてどのような取組を予定しているのか。
 - (4) 搬出車両台数はどのくらいになるのか。
 - (5) 工事の進捗状況を住民にどのように周知するのか。
- (要望) 工事を円滑に進めるためには、周辺住民の方々の理解と協力が必要不可欠と考えるので、きめ細かな対応をしていただくことを要望する。加えて、周辺地域に不法投棄が行われていることから、工事後の環境整備に配慮するよう要望する。

5 焼却工場の整備

- (1) 都筑工場の整備計画はどうなっているのか。
 - (2) 大規模補修工事の内容はどのようなものか。
 - (3) ダイオキシン類などの排ガス対策はどのようになっているのか。
 - (4) 大規模補修工事実施までの期間、安定した運転は可能なのか。
- (要望) 今後も安定して適正処理が行えるように、計画的かつ効果的な整備をするよう要望する。

1 事業者による発生抑制の取組

- (1) 事業者による発生抑制の取組について、今までの経緯を伺いたい。
- (2) 今までの取組について、どう評価しているのか。
- (3) 発生抑制・再使用の推進に向けた、ファストフード店等における取組状況はどのようなになっているのか。
- (4) このようなファストフード店等の取組を市民に伝えていくべきと考えるがどうか。

2 家庭ごみの減量・リサイクルの推進

- (1) 電気式生ごみ処理機や生ごみコンポスト容器のこれまでの助成実績はどうか。
- (2) 購入助成による生ごみの減量効果はどのくらいと推測されるか。
- (3) 市民が自発的に生ごみの資源化に取り組んでいる事例はあるのか。
- (4) どの程度の規模で行われている取組なのか。
- (5) 市として、どのように支援しているのか。
- (6) もっと広報・普及に努めるべきだと思うがどうか。

3 家庭ごみ収集の委託

- (1) 家庭ごみ収集の民間委託については、公募型指名競争入札によって業者を決めているが、業者を公募するにあたって、どのような条件を付しているのか。
- (2) 入札参加業者数が少なくなってきたと聞いているが、その原因をどのように分析しているのか。
- (3) これまでの委託方法を見直すべきだと考えるがどうか。
- (要望) 例えば、市が車両を貸し出しするなどの方法もあると思うので、早急に民間業者が受託しやすい環境を整備していくことを要望する。